都道府県名	徳島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	上八万小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	３	２	１	１４	２３
児童数	６０	６９	８０	７１	８３	８０	３	４４６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

基礎基本の確実な定着をめざした指導方法のあり方
ー国語，算数のＴＴ・少人数指導を中心にしてー

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・２年生・算数
　児童の理解力は全体的に優れているが課題把握が難しい児童との差が激しく効果的なＴＴ指導のあり方に取り組むため。
・３年生・算数
　児童の理解力は全体的に優れているが習熟度が遅れている児童がみられ効果的なＴＴ指導のあり方に取り組むため。　　・５年生・理科
・４年生・算数
　習熟度の差が激しく２極分化し習熟度別・少人数学級などの取り組みについて取り組むため。
・５年生・算数
　教育機器（パソコン・プロゼェクターなど）を利用した効果的な学習指導に取り組むため。
・全学年・国語・算数
　朝の会前に１５分間の時間をとって音読・読み聞かせ・算数プリントの学習などを継続的に行った。

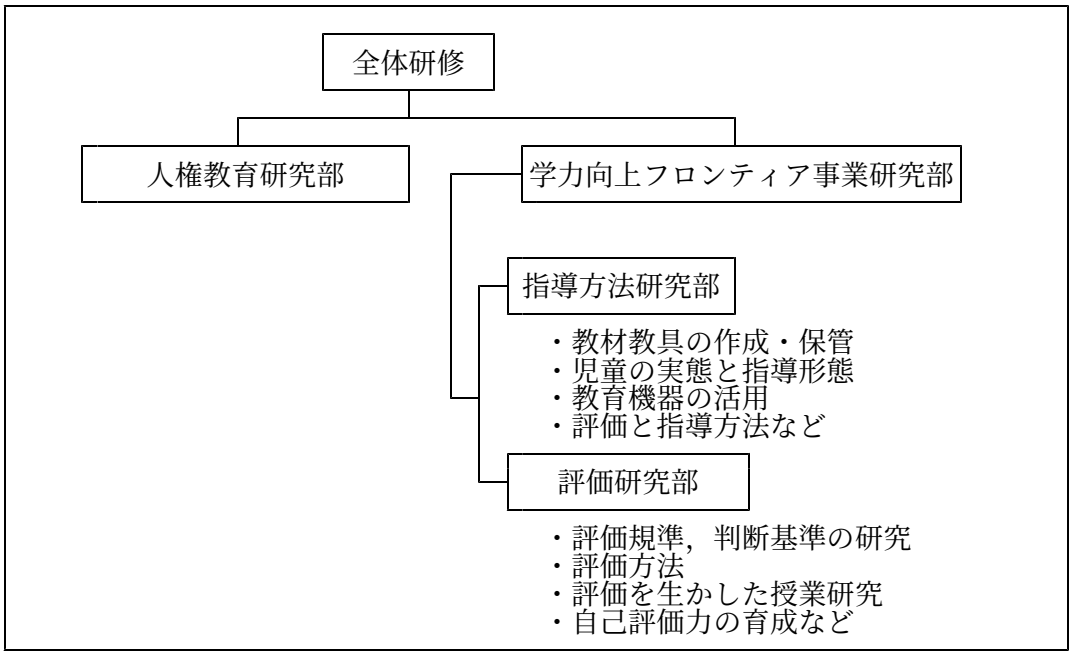
(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 基礎基本の確実な定着をめざした指導方法のあり方 ー国語，算数のＴＴ・少人数指導を中心にしてー ○　研究の見通し ・全学年に基礎学力検査を実施し，児童の実態を把握する。学力実態を基に研究実践の資料を作成し研究授業に生かせるようにする。 ・評価方法の工夫と実践。 ・基礎学力のとらえ方と共通化。 ○　研究の内容・方法 ・学習指導 ァ　算数科における全学年のＴＴ指導。 ィ　個々の児童のつまずきを克服する手だてとなる効果的な教材を開発する。 ・評価 ァ　絶対評価の考え方に沿ったより客観的で信頼性のある評価規準，判断基準の研究を行う。 ィ　評価の目的を明らかにし，指導と評価の一体化を図った授業のあり方について研究を進める。

平成16年度	○　テーマ 「基礎基本の確実な定着をめざした指導方法のあり方 ー国語，算数のＴＴ・少人数指導を中心にしてー（予定）） ○　研究の見通し 「基礎学力」をどうとらえるか，教職員間で十分話し合い，子どもたちの実態を基礎学力検査や授業分析などにより研究課題を焦点化し，鳴門教育大学の先生方の助言を仰ぎながら指導方法の工夫・改善や教材開発に努める。 ○　研究の内容と方法 ・学習指導 ァ　少人数指導や課題別学習，ＴＴ指導などを行い，児童の実態と指導内容に応じた柔軟な指導体制を工夫する。 ィ　個々の児童のつまずきを克服する手だてとなる効果的な教材を考える。 ・教育課程 ァ　弾力的な時間割の運用で，効率的に時数を確保できる教育課程のあり方を考える。 ・評価 ァ　絶対評価の考え方に沿ったより客観的で信頼性のある評価規準，判断基準の研究を行う。 ィ　評価の目的を明らかにし，指導と評価の一体化を図った授業のあり方について研究を進める。

＊　平成１５年度からの新規校については、平成１５、１６年度の計画について記入すること。

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○　ＴＴ指導により学力検査結果などによる習熟度の遅れのある児童の個別指導を実施して効果を上げた。また，年度末に基礎学力検査結果から習熟度の到達度の低い領域について関連した単元を新たに設けて授業を行った。
○　学級毎に，月に２度保護者による「お話」の時間を設けて、本の読み聞かせを行い本に興味を持つと共に聞く力の向上につながった。
○　校内ＬＡＮの設置に伴う教材開発や機器の指導に関する授業実践と開発を行った。
○　算数科においては，基礎学力検査を１学期に実施し，得られたデータを鳴門教育大学助教授の服部勝憲先生に分析して頂き，各学年の実態とを照らし合わせながら，各学年の問題点を明確にし，次年度に向けての指導方法や指導形態についての助言をいただいた。

２．今後の課題

○　今年度は基礎学力とは何か，基本的な考え方の共通理解を図ることにことに重点を置いたために，焦点を絞った研究・実践ができなかった。
○　実質的に年度途中のスタートとなり，具体的・日常的な実践課題として，教育課程の編成や環境整備などに反映させるのに難しい面が多かった。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○　教研式標準学力検査「ＣＲＴ」を実施しコンピュータ診断における本校と全国との領域別通過率の比較や各学年や個々のデータを基に，来年度の取り組みに向けての参考にしている。また，来年度の同時期に再度基礎学力検査を実施し，得られた評価を基に，授業実践に生かしていこうと考えている。
○　算数科の単元によっては，その終末に自己評価付きのプリントを活用した。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　研究会、説明会等の開催実績は本年度なし。来年度の研究会、説明会等の実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目　的等）は未定。
○　本年度の研究成果普及のためのＨＰ作成、パンフレット作成等の実績（学校としての　創意工夫を含む）はなし。今後の予定としては報告書の作成・研究実績などの作成を予定。また、新たに教材として作成されたプリントやワークシート，教育機器の利用法についてはホームページで公開予定。
○　フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績を来年度実施予定。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　☑１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導　□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　☑国語　□社会　☑算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□無